

科目	医療安全管理学	担当	河野 美絵	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

医療が複雑化、高度化、専門分化する中、医療安全管理は医療機関の重要課題とされている。この講義では、患者中心の安全・安心で安楽な質の高い医療提供を基本とし、患者の権利、安全文化の醸成手法、効果的・効率的な事例分析およびその後の有効活用等学問体系的に学び、医療機関で組織横断的役割を担う医療安全管理者、医療メディエーター、Quality Managerとして実践できるよう学習する。また、安全な医療提供は、医療者-患者間の関わりなくして実現は困難である。患者安全のためのコミュニケーション、医療メディエーションの基礎についても学ぶ。

【履修注意】

携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入退室禁、10回以上出席を条件とする。

※「医療安全管理学」は医療マネジメントコース必修科目である。

【評価方法】

①期末テストによる評価:60% ②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

【試験について】

筆記試験を行なう。

再試験対象者:不合格者のうち総合(期末テスト及び授業参加・レポート等)による評価が40点以上の学生

【予習・復習】

各回授業内容に応じ、授業前予習(専門用語、関連文献等の検索)、授業後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。

【教科書】

購入教科書なし。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	Introduction	医療安全管理学とは?
2	医療安全管理Ⅰ	患者の権利、医療人としての職業倫理・責務、法的責任、Patients Safety Manager, JCAHO, IOM, NHSなどについて
3	医療安全管理Ⅱ	医療安全推進、行政機関の取り組み、各医療機関の取り組み、現状把握のための院内医療安全パトロールの実施について
4	医療安全管理Ⅲ	インシデント・アクシデント事例分析、警鐘事象(sentinel events)、有害事象(adverse events)、医療事故報告制度と活用
5	医療安全管理Ⅳ	システム不全、ヒューマン・エラー、医療事故要因分析手法(SHELL,4M4E,RCAなど)、有効な分析手法、航空業界の応用
6	医療安全管理Ⅴ(演習)	医療事故発生メカニズム、問題解決・改善、再発防止策及び未然防止対策、ヒューマンファクター工学応用、グループワーク
7	医療安全管理Ⅵ(演習)	人材育成・再開発、シミュレーション教育、安全教育、危険予知トレーニング、意識改革、継続的な取り組み、GW
8	中間まとめ	1~7のまとめ(レポート)
9	組織構築Ⅰ	医療安全管理者の役割、医療安全管理者(適任者)人選のあり方、リーダーシップのあり方、医療安全管理部門設置の必要性
10	組織構築Ⅱ	チーム医療の担い手として各部署間コミュニケーションを図り、組織横断的に取り組むCoordinator/Negotiatorとしての役割
11	組織構築Ⅲ	院内安全研修会、安全大会などの効果的実施のための手法、説明責任、医療事故訴訟対応及びADR(裁判外紛争解決)など
12	クオリティ・マネジメント	医療の質・安全管理と?日本医療機能評価機構、ISO認証
13	医療安全の確保と医療の質向上	継続的な医療安全の確保、医療の質の向上を目指して
14	医療安全管理体制構築Ⅰ	医療メディエーション、Team Building、Non-Technical Skill習得
15	医療安全管理体制構築Ⅱ	医療安全管理体制構築の新たな手法、組織マネジメント評価
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ